

本記事は、Clair Report No. 335「フランスの環境配慮型交通政策」
(2009年1月25日、(財)自治体国際化協会パリ事務所) から一部抜粋したものです。
執筆担当者 土橋所長補佐(群馬県派遣)、Charles-Henri HOUZET調査員

このレポートの全編は、こちらからご覧になれます。

→http://www.clair.or.jp/j/forum/c_report/pdf/335.pdf

第3節 貸自転車

1 パリ市のVélib' の現状

2007年7月15日に、パリ市がセルフサービスの貸自転車Vélib' を導入して以来、フランスではレンタサイクル制度が急速に普及している。

実は、ラ・ロシェル (La Rochelle) では1976年に、レンヌ (Rennes) やリヨン、ストラスブールなどでも2005年に導入されていたのだが、大都市パリでの成功例がその人気に拍車をかけたといえる。現在、約15都市が自転車専用レーンの拡張を進めると同時にこの制度を導入し、貸自転車の総台数はすでに4万台に上るといふ。



市民の足としてすっかり定着した Vélib' は、週末にはステーションにほとんど自転車がなくなることもあるほどの人気ぶり (右)

利用方法は基本的にどこでも同じで、最寄りのステーションから自転車を借り出し、利用した後は近くのステーションに乗り捨てるというものである。

また、利用料金も概ねどこでも同様になっている。Vélib' の場合、「基本利用料金+使用料」からなっており、基本利用料金は契約期間によって1日1ユーロ、1週間5ユーロ、1年29ユーロの3種類がある。使用料は、最初の30分が無料で、30分超60分以

下返却で1ユーロ、60分超90分以下返却で2ユーロ、90分以上は30分ごとに4ユーロとなっている。つまり、1日利用の契約をして1時間借りると、利用料金は2ユーロとなるわけで、この安価さが大きな魅力となっている（契約時に、保証金として150ユーロがクレジットカードに課金されるが、実際には引き落としになることはない）。

各方面から注目され話題を集めたVélib'であるが、その利用状況は実際どのようになっているか。ここでは、Vélib'導入から約1年経過した2008年5月に、TNS Sofres社が実施した調査結果の数字から、Vélib'の現状を概観する。

- ① 年間加入契約数 200,000件
- ② 1回あたりの平均利用時間 18分
- ③ 利用者の33%は郊外からパリに来る人たち
- ④ パリ市内の交通で自転車が占める割合 3%
- ⑤ 調査に回答した利用者の
 - ・39%は自宅－職場間または自宅－大学間で利用
 - ・33%は観光目的または遠出のために利用
 - ・24%はスポーツとして利用
- ⑥ サービス開始以来、3人が事故で死亡

パリのような大都市で自転車に乗るのは、安全面から見てどうであろうか。実は、Vélib'の利用者が増えることにより、パリ市内の交通が混乱する、あるいは交通事故が増えるという可能性は、その導入前から指摘されていた。というのも、フランス国内の交通規則では、自転車は車道、バスレーンまたは自転車専用道路のいずれかを走らなければならない、歩道は走行できないことになっており、自動車やバスの運転手は今まで以上に自転車に注意を払う必要があるからである。

上記⑥のとおり、この1年での死者数は3人ととどまっているが、今後このまま低水準を維持できるかどうか、注視していく必要があるだろう。

2 契約面から見るVélib'

Vélib'の特徴は、納税者負担がゼロである点である。パリ市は制度導入に際して、アメリカの大手広告代理店クリアチャンネル（Clear Channel）社とフランスの同業者ジェーシードゥコー（JC Decaux）社を競わせた。2社は入札で真っ向から対立し、激戦の結果後者がこの契約を勝ち取った。

同社は、市内で優先的に1,600の広告パネルを設置する権利と交換に、運営に要する経費を負担し、一方で市は同社から一定額の営業利益の還元を得ることになっている。



ステーション間でVélib'を移動し台数を調整する専用車

ただ、同社が提供することになっている 20,600 台の自転車と 1,450 のステーション（駐輪場）のうち、すでに供用されているのは 16,000 台の自転車と 1,230 のステーションにすぎない（2008 年 7 月現在）。また、この 1 年で約 3,000 台が盗難に遭い、ほぼ同数が破損するなど、総数の 3 分の 1 以上が何らかの被害を受けている。

確かに、パリ市内の歩道や公園の草むらに、棄てられたように倒れている Vélib' を見かけることは少なくない。また、モロッコのカサブランカを観光で訪れていたフランス人が、道路を走る Vélib' を見かけて驚いたといううわさもある。さらには、ルーマニアやジプシーのキャンプで Vélib' が発見されたという情報まである。

契約は、「故意に、または無意識に破損された多くの自転車を常にメンテナンスし、走行可能状態を維持する」という難しい内容になっているというが、果たしてそれが履行されているかどうか、疑問視する向きもある。

ちなみに、同社はこのセルフサービスの貸自転車サービスを、フランス国内の 10 の都市のほか、オーストリア、ベルギー、ルクセンブルグ、スペインでも提供している。最終的には、前出のクリアチャンネル社の 15,000 台に対し、ジェーシードゥコー社の総自転車数は 31,000 台となる見込みである。

3 他の都市に広がる貸自転車システム

Vélib' は、ジェーシードゥコー社が 2005 年にリヨンで開始した Vélo' v を模したものであるが、セルフサービス方式の貸自転車は、前述のようにフランスの各地で普及し始めている。

2007 年 5 月には、エクサン・プロヴァンス (Aix-en-Provence) が V' hello を導入、同 12 年 6 月にはオルレアンが Vélo' +、モンペリエ (Montpellier) が Vélo' magg' のサービスの提供を開始している。その後、2007 年 9 月にミュルーズ (Mulhouse) とブザ

ンソン (Besançon) がVéloCité、ナンシー (Nancy) はVélostan。10月にはマルセイユがLe vélo、続いて11月にはトゥールーズ (Toulouse) 、といった具合である。バイヨンヌ (Bayonne) 、ルーアン (Rouen) 、ディジョン (Dijon) 、ナントでも導入されている。



トゥールーズの貸自転車システム “VéloToulouse”